福生市立福生第六小学校　　NO.６１８　　令和６年７月１日

校報かめのこ

福生六小ホームページ　http://fussa-6e.hs.plala.or.jp/

か　考える子
め　めげない子
の　伸びる子
こ　心豊かな子

気遣いや人助けができる子ども

福生市立福生第六小学校
校長　　富永　大優

早いもので、１学期も残すところあと３週間となりました。１学期を振り返ると入学式、始業式から始まり、遠足や校外学習、日光移動教室などの様々な行事や、授業の中での多くの学びがありました。それらも含めた学校生活全体を通して、どの学年の子どもたち頼もしく、そして、たくましく成長した１学期だったと思います。

さて、そんな１学期を振り返ったとき、うれしいことがあったので、まずはその一部を書きたいと思います。過日ですが、校庭での全校朝会が終わったときのことです。子どもたちは教室に戻るために、下駄箱で上履きに履き替えていました。校舎内に入るときに、外履きの砂は、ほとんど落ちているのですが、それでもいくらかは下駄箱の前の床に落ちてしまいます。多くの子どもたちが履き替えるので、段々と砂は多くなりました。そのとき、高学年の児童がスッと箒を手に取って掃き始めました。「気づいたから掃いた」そんな自然な行動でした。

別の日の話です。校外での学習のときです。子どもたちは、お昼の弁当を食べ終わり、片付けを始めました。私が、あるグループの横を通り過ぎようとしたとき、ゴミが落ちていました。そこで、私はそのゴミが誰のゴミかを確認したところ、誰も心当たりがないと首を横に振っていました。すると、その場にいた男児が「おれがすてておくよ」と言って、そのゴミを自分のリュックにしまいました。その時の言動は、義務感でも正義感でもなく、ただただ自然でした。

もう一つ別の日の話です。忘れ物を届けにきた保護者の方が、門のところで私に忘れ物を届けに来たことを話していると、通りがかった女児が「いいよ、持っていく」と言って忘れ物を受け取り、校舎に入っていきました。このときも、そうすることは当然というように、意識もせずに自然に出てきた行動でした。

どの場面でも、子どもたちはそうすることが当たり前のことのように、何の躊躇もなく行っていました。そして、その姿に感心したのを覚えています。このほかにも福生第六小学校の子どもたちのこういった行動を目にすることは多いです。みんなのことや、相手のことを考えて自然に気遣いや人助けができる子どもたちです。

もうすぐ長い夏休みに入ります。各御家庭では、学校に登校していたときよりも子どもたちと過ごす時間が長くなる場合もあると思います。その中で、子どもたちが自然に気遣いや人助けをしている場面に接し、心が温かくなることが多くなるのではないでしょうか。そういった時には、ぜひ声をかけ、うれしい気持ちや感謝の気持ちを伝えてもらえたらと思います。言われた子どもたちもきっと笑顔になり、うれしくなるはずです。子どもたちも保護者の皆様も気持ちが温かくなることが多い夏休みしてほしいと思います。